



2026春闘

Part 1

JR東日本で働く社員から、東日本ユニオンに寄せられた声

「変革 2027」で何が実現したのか！？

- 活躍フィールドを拡大することが「社員の幸せ」だと会社は勘違いしています。
- 「融合と連携」によって手取りが減りました。収入は確実に減り、仕事も複雑になりました。「変革 2027」で良いことは一つもありません。
- 「融合と連携」とは都合の良い言葉です。結局は「何でもアリ」ということです。「社員・家族の幸福の実現」と謳っていましたが、幸福になっていません。
- 要員が足りず休日出勤ありきの上に、様々な業務をやらされるようになっただけです。
- 統括センター化のとき「すべてが社員の発意で」となっていますが、設立時にある程度会社としての柱や方向性を示していないため、結局、社員が何を担ったら良いか分からなくなっています。何も決めないことが「柔軟」ではありません。
- 「変革 2027」で確実に社員がやることは増えました。しかし、会社の成長に比べて賃金は上がりず、職場では不満の声ばかりです。
- 最近の度重なる事象は「経費の削減によるもの」と言われていますが、技術継承にも問題があるように感じています。
- 会社は「社員・家族の幸福の実現」と言っていますが、現実として「新たなジョブローテーション」では不満の声しか聞こえてきません。異動・担務変更ありきの施策でしかなかったと思います。社員にとって退職までやりたい仕事をやれたほうが、本人にとって幸福につながります。今後さらに兼務や相互運用、ワンマン運転が加速し、社員一人ひとりの精神的、肉体的な負担は増すばかりです。それに見合った大幅な賃上げをするべきです。
- 「変革 2027」で「幸福になったのか」と言われると、なっていません。
- 事象が多発しています。事象が起きてから対策するようでは遅いです。利益第一ではなく、安全や人への投資を惜しんではいけないはずです。鉄道の安全を守るためにも、設備投資だけではなく安全第一で頑張っている社員への投資を行うべきです。

働きに見合う賃金引上げを実現しよう！